

137 「新 かぼちゃといもがら物語」 #5 『神舞の庭』

開催日：令和2年10月31日(土)、11月1日(日) ■ 開催場所：延岡総合文化センター 小ホール(延岡市)



実施状況

宮崎県立芸術劇場が自主制作する演劇シリーズ「新 かぼちゃといもがら物語」の第5弾として、宮崎市の同劇場に続いて公演されました。大沢健さんら実力派俳優が出演。中山間地域の課題と家族の心の触れ合いを力強く演じました。

神楽を代々受け継ぐ家族を主人公に、過疎化が進む山村の課題を浮き彫りにする長田育恵さんの作品。同シリーズ第2弾として平成30年に初演されたものを、同劇場演劇ディレクターの立山ひろみさんの新演出版で上演しました。大沢さん演じる長男の妻に東風万智子さんを起用し、本県ゆかりの俳優陣も多数出演。来場者に、他人ごとではない現代が抱える悩みを突きつけ、考えさせる舞台となりました。立山さんは「宮崎弁、神楽の舞いと精度を高めるのに苦労しましたが、出演者たちが短期間で練り上げてもらい、納得のいく公演となりました」と話していました。

あらすじ

宮崎の山間にある集落で、代々その地区の神楽を受け継いできた中崎家。祭りの前日、実家で暮らす次男・亮二夫婦のもとに、東京在住の長男・俊一が、突然妻子を連れて帰って来る。同日、老母・登志子が倒れて昏睡状態になってしまい…。混乱の中、中崎家の人々が抱える悩みが次第に明らかになっていく。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、公益財団法人宮崎県立芸術劇場 □共催=公益財団法人のべおか文化事業団

138 全国高校生短歌オンライン甲子園

開催日：令和2年11月7日(土)、8日(日) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター イベントホール(宮崎市)



実施状況

高校生の3大短歌大会の覇者と宮崎県内の実力校3校が、短歌の出来映えや鑑賞する力を、1チーム3人の団体戦で競いました。

参加校は、令和元年の全国高校生短歌大会(岩手県盛岡市)優勝の八戸高校(青森県)、令和2年の牧水・短歌甲子園(日向市)優勝の高田学苑高田高校(三重県)、高校生万葉短歌バトル(富山県高岡市)優勝の渋谷教育学園渋谷高校(東京都)、宮崎西高校、宮崎商業高校、五ヶ瀬中等教育学校の6校。予選リーグでは3校が同勝率で並ぶほど実力が拮抗した中、高田高校と五ヶ瀬中等教育学校が決勝に進出。歌人の伊藤一彦さん、小島ゆかりさん、俵万智さん、大口玲子さん、笹公人さんによる審査で高田高校が優勝しました。惜しくも敗れた五ヶ瀬中等教育学校の選手は「対戦を通じて自分たちの歌の良さも再認識することができました」と話していました。

翌日には審査委員による座談会「歌が生まれるとき」を開催しました。

表彰

団体戦/優勝、準優勝□作品賞/伊藤一彦賞、小島ゆかり賞、俵万智賞、大口玲子賞、笹公人賞、角川「短歌」編集部賞、「歌壇」編集部賞

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

139 山内達哉広報アンバサダー就任記念コンサート

開催日：令和2年12月11日(金)

開催場所：宮崎県庁5号館(宮崎市)



実施状況

都城市出身のヴァイオリニスト山内達哉さんの国文祭・芸文祭みやざき2020広報アンバサダー就任を記念してコンサートを行いました。クラシックや映画音楽など幅広い楽曲を披露、美しさと力強さに満ちた音色で来場者を魅了しました。

コンサートはブラームスのハンガリー舞曲第5番で幕開け。山内さんは曲の解説をしながら映画のテーマ曲、オリジナル曲「霧島～約束の地～」など12曲を披露。会場の県庁5号館は、昭和元年に銀行として建築された歴史のある建物で、今回初めて音楽イベント会場として活用しました。聴き入っていた来場者は「コンサートホールとは一味違った面白さがあった」と感想を話していました。

山内さんは宮崎大宮高校を卒業後、桐朋学園短期大学部でヴァイオリンを専攻。在学中から音楽家としての活動を開始し、最近では、全国公開された映画「望み」の映画音楽を担当しています。広報アンバサダーの委嘱を受け、「音楽を通して本県の魅力を広く伝えていきたい」と意欲たっぷり。この日のコンサートでは「歴史を感じられる空間で、良い具合の響きに仕上がった」と満足そうでした。

出演者

山内達哉(ヴァイオリン)、fumiko(ヴァイオリン)、青木将(ギター)、西村友貴(ベース)



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

140 第40回伝統文化ポラ賞受賞記念公演

開催日：令和2年12月22日(火)

開催場所：宮崎県庁5号館(宮崎市)



実施状況

椎葉神楽保存連合会(尾前秀久会長)の第40回伝統文化ポラ賞地域賞受賞を記念して、椎葉神楽の一つ、尾前神楽の公演を行いました。会場には注連縄や御幣などで飾られた御神屋が設けられ、「大神」「占ホメ」「鎮地」「森の上」の4番を披露しました。激しい太鼓や鐘の音に合わせた本番さながらの勇壮な舞に、会場を訪れた人たちからは「迫力があり素晴らしい」との声が聞かれ、神楽の魅力に魅了されていました。

椎葉神楽は村内26の集落で継承されており、例年11月から12月に集落ごとに奉納されています。舞や衣装、太鼓の調子などがそれぞれ異なり、昔の態様を残していることから平成3年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

伝統文化ポラ賞とは

公益財団法人ポラ伝統文化振興財団が、国内の無形の伝統文化を保存・振興に取り組む個人・団体を表彰するもので、令和2年に第40回の節目を迎えました。椎葉神楽の保存・伝承に取り組んでいる椎葉神楽保存連合会は、神楽の調査・記録、後継者育成のほか、年1回、神楽まつりを開催するなど、神楽の伝承と地域活性化に多大な貢献をしているとして、今回、第40回伝統文化ポラ賞地域賞が贈られました。



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

141 キキタビ（記紀旅）

開催日：令和2年7月23日(木)～10月31日(土) ■ 開催場所：県内各地



実施状況

記紀編さん1300年を記念し、多くの県民が故郷にまつわる記紀神話に触れることのできる県内の神社や史跡等を周遊する観光プログラムを実施。

「神話の舞台宮崎」をテーマに県内を「国生みの物語」「天岩戸の物語」「天孫降臨の物語」「木花開耶姫・磐長姫の物語」「海幸・山幸の物語」「神武天皇の物語」の神話ごとに6つにエリア分けし、参加者は神社や史跡を巡りながら、対象神社でオリジナルの「記紀旅記念御朱印」を受け取りました。

御朱印巡りは14神社で展開。各エリアの神社とまつわる神話・伝承を紹介するパンフレットとともに、大会ポスターデザインを表紙にしたオリジナル御朱印帳も作成しました。

また、インスタグラムを利用して「SNSモニター」を募集したところ78人が応募。「キキタビサポーター」として、キキタビにゆかりのある神社の情報や近隣の飲食店の情報発信に協力してもらいました。また、市町村観光協会や県内宿泊施設等と連携したキャンペーンも実施し、本プログラムを盛り上げました。

対象神社

江田神社、東霧島神社、天岩戸神社、高千穂神社、霧島岑神社、霧島東神社、都萬神社、青島神社、潮嶽神社、鶴戸神社、狭野神社、宮崎神宮、都農神社、立磐神社

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

142 宮崎ハイボールキャンペーン

開催日：令和2年8月1日(土)～11月30日(月) ■ 開催場所：宮崎市、都城市、日南市の飲食店



実施状況

国文祭・芸文祭を飲食店から盛り上げるため、「宮崎の本格焼酎」を炭酸割にした宮崎ハイボールと宮崎グルメを飲食店で味わう「宮崎ハイボールキャンペーン」を実施しました。

令和2年度は宮崎市、都城市、日南市の3市50店舗で展開。炭酸割の「宮崎ハイボール」と、日向夏発見200年を記念して県産日向夏を使った「宮崎日向夏ハイボール」の2種類が提供されました。

宮崎ハイボールは、シンプルで爽やかな飲みごたえ。宮崎日向夏ハイボールは日向夏のシロップが入ったオリジナルで、甘酸っぱい味わいが人気に。また、宮崎ハイボールは大会ポスターを飾る神楽の「彫り物」をデザインしたオリジナルグラスで提供され、こちらも好評でした。

9～10月には、飲食店や自宅で「宮崎ハイボール」を楽しむ写真をツイッターやインスタグラムに投稿すると、抽選でオリジナルグラスや県産品をプレゼントするキャンペーンも実施するなど、大会を盛り上げました。



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会
▽協力=公益財団法人宮崎県観光協会、ミートツーリズム推進委員会、日南市観光協会、みやざきブランド推進本部

143 南九州ファミリーマート共同商品開発

■ 開催日：令和2年8月11日(火)～11月30日(火) ■ 開催場所：ファミリーマート(宮崎県、鹿児島県)



実施状況

令和2年に南九州ファミリーマートと連携した食育・地産地消のプロジェクトを実施。「宮崎の食文化」をテーマに県立福島高校(串間市)と南九州大学(宮崎市)がオリジナル商品を開発、宮崎、鹿児島県内のファミリーマート全店舗で販売、宮崎の食をアピールしました。

福島高校普通科地域創生科の商品は、本県独自の柑橘、日向夏を使用した「日向夏 Cake」。商品名の考案やパッケージ制作まで生徒一丸となって取り組んできました。南九州ファミリーマートとリモート会議を重ね、1万6,000個以上を売り上げるヒットとなりました。

南九州大学管理栄養学科が考案したのは、宮崎の郷土料理をアレンジした3種類。宮崎県産の鶏の炭火焼や豊富な野菜を使用し、試作や南九州ファミリーマートとの意見交換を重ねて商品化を進めてきました。

サツマイモと餅を練った郷土菓子「ねりくり」を洋菓子にアレンジしたタルトなど、アイデアあふれる商品が出来上がりました。

商品概要

福島高校「日向夏 Cake」(128円・税込) 令和2年8月11日～9月7日販売

南九州大学「宮崎名物!『鶏の炭火焼』おむすび」(130円・税込)、「5種具材の豆腐サラダ(菜豆腐風)」(230円・税込)、「おいとカスタードのタルト」(228円・税込) 令和2年11月3日～30日販売

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

144 サチタビ

■ 開催日：令和2年10月24日(土)～25日(日)、11月7日(土) ■ 開催場所：串間市、都農町



実施状況

県内各地で食文化の継承や、新しい食文化の創造に取り組む人々の情熱を感じる体験ツアーを実施しました。参加者は体験や講話を通じて、地域の魅力や食文化を再発見しました。

串間市ではエコツーリズムを中心に、地元ガイドと散策しながら、御崎馬の生態や海外との交易港として栄えた歴史を学びました。また、かまぼこ作りや漁師体験にも挑戦し、串間の海の幸を味わいました。

都農町では、国際的にも評価の高い「都農ワイン」について、ぶどうの生育を取りまくすべての環境「テロワール」について学び、同町の地質環境について理解を深めました。また、日本唯一の洋樽専門工場の有明産業では、酒造りに重要な要素となる樽の役目について知ることができたほか、職人によるワインの製造現場を見学。参加者は、職人たちの話に耳を傾け、都農ワインの魅力をつつりと堪能しました。

プログラム

「家族みんなで大漁! 串間・海の幸ツアー」10月24日(土)～25日(日) ▽「食×テロワール 都農ワイン～ルーツを学んで味わい楽しむツアー」11月7日(土)

行程

串間市/宮崎駅-川畑蒲鉾店-大乃屋-旧吉松家住宅-本城歴史発見塾-宿泊-定置網漁業体験-都井岬
都農町/宮崎駅-有明産業-都農ワイナリー-道の駅つ

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

145 ひなたのめぐみ大学校

「森の恵み～命を頂く山里の狩猟文化」

■ 開催日：令和2年11月21日(土)～22日(日) ■ 開催場所：諸塚村、椎葉村



実施状況

日本三大秘境の村のひとつである椎葉村をはじめ、自然豊かな地域で育まれてきた独自の狩猟文化について学びました。猟師や地域の方から、「狩猟によっていただいた命に感謝し、命の安全を祈う」山岳信仰や狩猟についての話を聞きながら実際に山を散策。参加者はジビエや郷土料理を堪能することで山里の生活を体験し、地域の魅力を実感しました。

行程

宮崎駅—どんこ亭(諸塚村)—尾前地区(椎葉村)—民宿—トムソーヤの森—土椎葉ダム湖クルージング—よこい処しいばや—平家本陣—道の駅とうごう

「みやざき究極の蕎麦をもとめて」

■ 開催日：令和2年11月28日(土)～29日(日) ■ 開催場所：高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村



実施状況

世界農業遺産に登録された高千穂郷・椎葉山地域の5町村を巡り、現地で集めた材料を使い「究極の蕎麦づくり」を体験しました。諸塚村では出汁の決め手となるシイタケを収穫。椎葉村では焼畑蕎麦について知り、地域の方から蕎麦粉を譲ってもらいました。五ヶ瀬町では4億年の雫とも言われる湧き水を採取し、日之影町では蕎麦の薬味となる柚子こしょう作りに挑戦しました。

行程

宮崎駅—しいたけの館(諸塚村)—シイタケ生産地—よこい処しいばや—妙見神水(五ヶ瀬町)—道の駅—農泊—柚子こしょう作り体験(日之影町)—蕎麦作り体験(高千穂町)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

146 キッズプレスプロジェクト

■ 開催日：令和2年度 ■ 開催場所：県内各地



実施状況

宮崎日日新聞社と連携した、こども記者企画「キッズプレスプロジェクト(KPP)」は、県内の小・中・高校生が新聞記者の仕事を体験するもので、国文祭・芸文祭の開催に先駆けて令和元年度からスタートしました。

令和2年度は、10名のこども記者と7校の高校生記者が、神話や伝統芸能、食など身近な文化を取材。子どもたちが取り組んだ記事は、宮崎日日新聞本紙と宮日こども新聞に随時、掲載されました。

令和2年7月、赤江まつばら支援学校高等部1～3年生の6人の記者が、宮崎市指定無形民俗文化財の「木花相撲踊り」をテーマに、事前学習を経て取材に臨みました。木花相撲踊り保存会は、歌や三味線、太鼓に合わせた踊りを披露。生徒たちは、歴史や保存会活動などについて取材しました。

取材を体験した生徒は「調べていたことのほかにもいろいろ知ることができた」「生で見て一つ一つの踊りがかっこいいと思った」と話していました。

令和2年度 記者

【こども記者】原穂華、白本奈菜、築地泉樹、黒川蒼太、藤原葉奈、鳥原悠音、金丸めい、岡原結愛、山本大登、後藤千尋

【高校生記者】都城西高校、都城泉ヶ丘高校、富島高校、宮崎大宮高校、高鍋高校、日南学園高校、赤江まつばら支援学校



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎日日新聞社

147 まちなか文化祭～灯籠と音楽でつなげよう未来へのハーモニー～

開催日：令和2年11月7日(土)

開催場所：都城圏域地場産業振興センター(都城市)



実施状況

「灯籠と音楽でつなげよう未来へのハーモニー」をサブタイトルに、都城市ゆかりのアーティストらが歌やダンス、伝統芸能など多彩な舞台を繰り広げました。

市内の中高生ペアによるダンス、都城工業高校ビッグバンドや今回のために結成されたバンドなど6団体が出演。ヒット曲を多彩にアレンジした演奏に、約400人の観客は手拍子を送り、体を揺らして楽しみました。出演したパーカッショニストの谷口潤実さんは「コロナ禍で演奏の機会がない中、観客からの生の声援が活力になることを改めて実感した」と話していました。

会場には、島津家の武将などを描いた灯籠15基のほか、都城工業高等専門学校の生徒などが手作りした竹灯籠も多数飾り付けられ、揺らめく灯が幽玄な世界を演出していました。主催者として運営に携わった子育て支援グループ「ジョイナス」の永野洋子会長は、「感染防止に気を使いながら準備を進め、当日も大変でした。出演者も観客も満足してくれて、やってよかったです」と満足そうでした。

出演者

太郎坊奴踊り、竹原由紀子(語り部)、TOKO BIGBAND、ボーカルユニット Land Cell、RIO◇MINT、TANIGUCHI HIROMI TRIO



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、ジョイナス

148 美術館を編むー宮崎県立美術館の25年

開催日：令和2年11月14日(土)～12月20日(日)

開催場所：宮崎県立美術館 2階 企画展示室(宮崎市)



実施状況

開館25周年を迎えた宮崎県立美術館の記念特別展。これまでの25年の歩みを振り返り、これからの25年を考えるーをコンセプトに、4,200点を超える所蔵作品の中から選りすぐりの約100点を展示、期間中に約2,300人が鑑賞しました。

「収集保存」「調査研究」「教育普及」といった美術館の活動を柱に、3部構成で展示。主な展示会の資料や、担当した職員の言葉もあわせて紹介されました。第一部では収集保存の観点から、コレクションの中心となる宮崎市出身の作家・瑛九の作品や、同館の特徴であるシュルレアリスムの作品からルネ・マグリットの「現実の感覚」などの名品が並びました。第二部では調査研究の観点から塩月桃甫、山田新一ら本県を代表する郷土の洋画家の作品に加え、瑛九を中心に設立されたデモクラート美術家協会の作品を紹介。瑛九の絶筆「つばさ」も展示しました。第三部では教育普及の観点から公開制作で招聘した作家の作品を、当時の写真や作家の言葉も交えて紹介しました。

期間中は、宮崎を拠点に活動するコンテンポラリーダンスカンパニー“んまつーポス”のパフォーマンス映像が上映されたほか、屋外彫刻・建築ツアー、担当学芸員によるギャラリートーク、「みんなで考える未来の美術館」などの関連イベントも開かれました。



主催

宮崎県立美術館、文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

149 ヒカリトカゲノシンワ

開催日：令和2年11月22日(日) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター イベントホール(宮崎市)



実施状況

諸塚村、西都市、宮崎市清武町、日南市に残る4つの民話をベースとした物語を、影絵と音楽で表現する舞台。公募で集まった7歳から57歳の県民13人が、約100人の観客を前に練習の成果を披露しました。

ほとんどが影絵初心者出演者たち。5回のワークショップで影絵師の川村亘平斎さん、作曲家の宮内康乃さん(いずれも東京都)の指導を受けながら、民話に出演者それぞれのファミリーヒストリーを織り交ぜた新たな物語を創作し、影絵人形、音楽も手作りしました。

公演は15分ずつ4本の作品をオムニバス形式で上演しました。出演者は身近なもので手作りした楽器を自身で演奏。幕に映る影の大きさ、指1本1本の動きにも注意しながら、懸命に演じました。出演者は「自分の体を使って動かせるのが楽しかった」と満足そうな表情。幕の裏側も見ることができた観客は「工夫して遠近感を出しているのが分かり、面白かった」など感心した様子でした。

ストーリー

第1話「ナナツヤマ」 諸塚村にある山に住んでいた、三ツ山太郎と四ツ山太郎という山んじい(妖怪)のお話▽第2話「シロミノヒトツメコゾウ」 西都市の銀鏡神社まつわのお話▽第3話「ミズナシガワ」 清武川の支流になる水無川のお話▽第4話「アブラツクジラ」 日南市の油津で、浜辺の人を救った大きい鯨のお話

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、公益財団法人宮崎県立芸術劇場

150 出張型イベント「“こころ”のふれあうワークショップ」

■ 開催日：令和2年11月14日(土)、28日(土) ■ 開催場所：りんりん食堂(三股町)
 ■ 開催日：令和2年11月26日(木) ■ 開催場所：工房・あわいや(宮崎市)
 ■ 開催日：令和2年12月15日(火) ■ 開催場所：ふれあい作業所あまてらす(高千穂町)



実施状況

劇場に来場できない人にも、地域の交流施設である子ども食堂や障がい福祉施設などで気軽に芸術文化を体験してもらうため、障がいのある人も含む県内の俳優3人と演出1人で構成する劇団「風のゆかいアート一座」が、演劇の出張公演とワークショップを実施しました。

音響や照明、舞台装飾を使用しない演劇公演では、観客は俳優の演じる姿を間近で見ることができました。

観客の中から選ばれた出演者がセリフを読んだり、劇中に登場するこいのぼりの滑車が回る音などを観客全員で声出ししたりして、観客も劇に参加しました。また、子ども食堂でのワークショップでは、割り当てられた登場人物を演じて詩を朗読したり、俳優が声で表現する場所を当てるクイズに挑戦したり、子どもたちを含む参加者は、演劇の手法を使った表現を楽しみました。

プログラム

【ワークショップ】みんなで声を出してみよう
 【演劇公演】「おばあさんのこいのぼり」▽作／藤井貴里彦▽演出／永山智行(劇団こぶく劇場代表)▽出演／かみもと千春(劇団こぶく劇場)、新納愛未(みやざき演劇若手の会会長)、和田祥吾(みやざき◎まあるい劇場代表)

主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎県障害者社会参加推進センター

151 全国連携事業「不死鳥(フェニックス)ウォールアート」展示

開催日：令和2年10月31日(土)～

開催場所：アミュプラザみやざき うみ館屋上(宮崎市)



実施状況

本県の大会が、復興五輪と位置づけられた東京オリンピック・パラリンピック大会と同年に開催されることを記念して、アートの力で被災地を応援することを目的に、全国から公募した作品を組み合わせ一つの大型作品を制作しました。制作したのは、何度でも苦難に打ち勝つ伝説の鳥「不死鳥(フェニックス)」です。

不死鳥の翼を構成する羽根のぬり絵を公募したところ、全国から1万2千点を超える多数の作品の応募がありました。

応募作品の中から選んだ作品をスキャンしてデータ化、組み合わせ赤色を基調としたものと、青色を基調としたもの、デザイン2体を制作し、JR宮崎駅前のアミュプラザみやざきのうみ館屋上に、縦2m、横20mの巨大なウォールアートとして掲示しました。一つひとつの作品を損なわないよう工夫して制作したため、遠くからだけでなく、近くでも楽しんで鑑賞できる作品となりました。羽根のぬりえには、大会広報アンバサダーのピアニスト・野田あすかさん、同じくアンバサダーのアルケミスト・こんやしょうたろうさん、井尻慶太さんにも参加していただき、令和3年度に延期した大会の開催気運を盛り上げました。

羽根の絵の応募実績

1万2,337点(内訳=県内(19市町村)6,698点、県外(29都道府県)4,869点、海外(台湾)770点)

主催

厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

152 生頼範義展 創作の軌跡と秘密を探る

宮崎市

開催日：令和2年10月17日(土)～11月15日(日)

開催場所：みやざきアートセンター アートスペース2・3



実施状況

宮崎市にアトリエを構え、世界的イラストレーターとして活躍された生頼範義氏の没後5年に合わせ、制作過程の資料を読み解き、創作の経緯を検証する展示会を開催しました。代表作となる映画ポスターや書籍の表紙、未発表作品の制作の基となった貴重な資料など約190点を一堂に展示。来場者は、生頼氏がどんな資料を集め、どのように構図を考えたのか?完成した作品がどのような過程を辿り創作されたのかを普段の絵画展では鑑賞できない展示で真剣に魅入っていました。

期間中には人気イラストレーターの開田裕治さんを講師に招き、ワークショップ「生頼範義の宇宙を描こう」を開催。生頼ファンら8人がアクリル絵の具を使い、生頼氏が実際に用いた技法に挑戦し、独自の宇宙を描きました。本展示会の開催に合わせ新設された生頼範義賞。「現代の神話」をテーマに全国からの応募があり、入賞、入選作6点が選定されました。審査員は開田さん、明治大学大学院の氷川竜介特任教授、映画監督の樋口真嗣さん、画家のオーライタローさんにより審査が行われ、展示会で同時に展示されました。

表彰

生頼範義賞/優秀賞3点、入選3点(最優秀賞 該当なし)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、みやざき文化村、一般社団法人生頼範義記念みやざき文化推進協会

153 全国漢詩の祭典

宮崎市

開催日：令和2年10月24日(土)

開催場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール



実施状況

宮崎県漢詩連盟発足2年目で初の祭典を開催しました。宮崎市清武町出身で数々の漢詩を詠んだ江戸時代の儒学者、安井息軒にスポットを当て、2部構成で息軒の偉業を偲びました。

午前の部は清武小学校の児童らが劇や合唱を披露しました。劇は息軒の人生をたどる物語。さまざまな功績をあげる様子を生き生きと演じ、会場から大きな拍手が送られました。同小学校児童は「息軒先生の偉大きに気づくことができるいい機会になりました」と話していました。宮崎吟詠会は息軒の構成吟の中で「三計の教え」、「中秋無月」を合吟で「詠梅」を3名連吟により力強く吟詠し会場を魅了しました。

午後の部では、全日本漢詩連盟会長の石川忠久さんにより息軒の漢詩9作品の講演が行われました。また、全国公募した入賞者の表彰がありました。

表彰

文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽宮崎市長賞▽第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会等会長賞▽宮崎市教育委員会教育長賞▽宮崎県芸術文化協会会長賞▽全日本漢詩連盟会長賞▽宮崎県漢詩連盟会長賞▽宮崎日日新聞社社長賞▽NHK宮崎放送局局長賞▽若年奨励賞▽秀作賞▽入選

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、全日本漢詩連盟、宮崎県漢詩連盟

154 みやざき洋舞フェスティバル 2020

宮崎市

開催日：令和2年11月1日(日)

開催場所：宮崎市民文化ホール 大ホール



実施状況

宮崎県内だけでなく、全国のクラシックバレエ、モダンダンス等の団体が出演、「日向ひなたに集いし洋舞の華々 今咲き誇る」をサブテーマに、3部構成で華麗な舞を披露し観客を魅了しました。

第1部「ひむか美しの華」には県内6団体約120人が出演。宮崎の豊かな自然と、歌人・若山牧水の短歌をスクリーンで紹介に合わせて、軽快なターンやジャンプで海・空・太陽を生き生きと表現しました。第2部は全国の5団体が「ひむかに集う華」と題して洋舞を披露。第3部は日向市出身でプリンシパルダンサーの西島数博氏が作・演出・振り付けを手掛けた創作バレエ「日に向かう国の物語」。西島氏ら一線で活躍するゲストの3人とオーディションで選ばれた県内の約70人が、日向神話の世界観を優雅にダイナミックに彩りました。

出演団体

エスポワール・バレエ、伊達バレエ団・バレエスクール、中野あけみバレエ学院、福永バレエ研究所、マスダモダンバレエアート、倫バレエスタジオ（以上宮崎県）、流山市文化協会洋舞部（千葉県）、H/Yダンスエテルノ（東京都）、石原弘恵・荻谷夏（愛知県）、藤田真弓バレエ教室（広島県）、福岡加奈子バレエ研究所（佐賀県）

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、みやざき洋舞フェスティバル実行委員会、公益社団法人日本バレエ協会、一般社団法人現代舞踊協会

155 ことば 現代詩の祭典 in 宮崎市

宮崎市

開催日：令和2年11月14日(土) 開催場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール



実施状況

全国から公募した詩の優秀作品表彰、詩の群読、講演など、詩を通して「ふるさと」の魅力を発信。来場者は言葉の持つ力を再認識しながら詩の世界に浸りました。

第1部では、「わたしのふるさと」をテーマに全国から公募。コロナ禍で心配された応募数は、小学生、中高生、一般（大学生含む）の3部門に合わせて1,151点と予想を上回り、関心の高さがうかがえました。1次、2次審査を経て入賞作品各部門10篇ずつを選び、会場で表彰しました。

第2部では、宮崎市の小学生や劇団員らが宮崎県内の雄大な自然の映像をバックに、同県出身の詩人らの作品群読と創作劇を披露。会場では「普段触れがたいイメージのある詩の世界を身近に感じられた」という声が聞かれました。第3部では、作家の片山恭一さんが「いま古典を読むことの意味」と題し講演。若者が生きるヒントを求めて古典文学に関心が向いていると紹介しました。

表彰

【小学生の部、中学生・高校生の部、一般の部（大学生等含む）】文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽宮崎市長賞▽宮崎市教育委員会教育長賞▽第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会会長賞▽日本現代詩人会会長賞▽日本詩人クラブ会長賞

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、日本現代詩人会、一般社団法人日本詩人クラブ、宮崎県詩の会

156 「神話のふるさとみやざき」全国俳句大会

宮崎市

開催日：令和2年11月15日(日) 開催場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール



実施状況

『日本のひなた』みやざきに語り継がれる神話に思いを馳せ、美しい自然に触れながらのびのびと俳句を詠み、俳句を語る」をサブテーマに、全国公募した入賞作品の表彰やパネルディスカッションを行いました。

2部門で事前投句を募り、小・中学生の部に36校から2,947句、一般・高校生の部は750人から2,616句が寄せられました。表彰式では、大会賞の入賞者一人ずつに表彰状と副賞が手渡されました。一般・高校生の部最高賞「文部科学大臣賞」受賞の大嶋康弘さん（東京都）は「真っすぐな海岸線など宮崎の印象を素直に詠みました。評価されてうれしい」と話していました。

オープニングでは高千穂神楽が奉納され、県内の俳人4人が「俳句と神話」をテーマにパネルディスカッションしました。

表彰

【小・中学生の部】文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽宮崎市長賞▽宮崎市教育委員会教育長賞▽現代俳句協会会長賞▽公益社団法人俳人協会会長賞▽公益社団法人日本伝統俳句協会会長賞▽宮崎県俳句協会会長賞▽「神話のふるさとみやざき」全国俳句大会実行委員会会長賞【一般・高校生の部】文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県議会議長賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽宮崎市長賞▽宮崎市議会議長賞▽宮崎市教育委員会教育長賞▽現代俳句協会会長賞▽公益社団法人日本伝統俳句協会会長賞▽宮崎県俳句協会会長賞▽「神話のふるさとみやざき」全国俳句大会実行委員会会長賞

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、現代俳句協会、公益社団法人俳人協会、公益社団法人日本伝統俳句協会、宮崎県俳句協会、「神話のふるさとみやざき」全国俳句大会実行委員会

157 都城市3館周年記念特別展～神話にみえる都城～

都城市

開催日：令和3年2月9日(火)～3月7日(日) ■ 開催場所：都城島津邸



実施状況

令和3年7月の「都城市3館周年記念特別展～神話にみえる都城～」のプレ展示として開催。奈良時代に編さんされ、都城島津邸所蔵の歴史書として保存されてきた『古事記』や『日本書紀』の写本を展示し、南九州に関わる記述や記紀研究などを紹介しました。

同展は3部構成で、「クマソ征討の説話」や古代南九州に実在し天皇に朝貢した「隼人」について取り上げ、古事記と日本書紀では記述が異なることをパネルなどで説明。都城市の早水神社の祭神で仁徳天皇の妃だった髪長媛についても触れ、日向出身であることが中央政権にとって重要だったことを推察しました。

担当者は「当時の学者たちがどんな気持ちで神話に触れ、研究を重ねたのかを感じ取ってもらえたのでは」と話していました。

プログラム

【第1章 記紀と都城のつながり】第1節「古事記」と「日本書紀」の成り立ち▽第2節「古事記」と「日本書紀」にみえる古代南九州の姿▽第3節「古事記」と「日本書紀」違い▽第4節 古代都城地域の歴史と記紀の繋がり【第2章 「古事記」と「日本書紀」の研究の歴史】第1節 完成後の「日本書紀」研究▽第2節 完成後の「古事記」研究【第3章 鹿児島藩国学者による記紀研究】第1節 白尾国柱の著作と記紀の関わり▽第2節 都城島津家家臣による記紀研究

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会

158 御池の龍伝説アートプロジェクトワークショップ

都城市

開催日：令和3年3月28日(日) ■ 開催場所：都城市内、Web



実施状況

霧島に伝わる「御池の龍伝説」をモチーフにした九頭龍の巨大インスタレーション制作に向け、「龍」に対するイメージを膨らませていくオンラインによるトークイベントを開催。その様子はインターネットで配信され、都城市立図書館と同美術館のモニターでも見ることができました。

プロジェクトを監修、指導するのは、現代美術家で秋田公立美術大の藤浩志教授（鹿児島県出身）。地域資材や廃材を利用して、「社会・地域・日常」をテーマにしたアートプロジェクトを数多く発表しています。

藤教授は秋田県からリモートで参加。8人のプレゼンターが、宮崎、鹿児島県に点在する龍にまつわる地名や伝承について発表したほか、史跡や出土品に残る龍の造形などを紹介。地元で収集された民話「庄屋どんと御池の龍」の朗読も放映されました。

また、動画投稿サイトを通じて同時配信もあり、視聴者からは「十五夜の綱引きで結った綱は、綱引きの後で相撲の土俵に使った」などの情報提供もありました。藤教授は「いろいろな広がりが見えて、プロジェクトへの可能性が広がった」と話していました。

さらに、令和2年度には、インスタレーション制作に用いる木の枝を収集。市民から寄せられた情報を基に、数千本を美術館横に集めました。制作は令和3年夏の完成を目指しました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、都城市美術展運営実行委員会

159 オータム・ロビーコンサート

延岡市

開催日：令和2年10月25日(日)

開催場所：延岡総合文化センター エントランス



実施状況

宮崎県出身、在住の声楽家で作るひむかオペラの会（後藤紀子会長）は、新型コロナの感染拡大防止のため、風通しの良いロビーに仮設舞台を設置。日本歌曲からオペラのアリアまで幅広いジャンルの10曲を、事前予約で集まった67人に届けました。

開催されるオペラガラコンサート in NOBEOKA のPRとして開催。会員たち11人は華やかな衣装で登場し、歌劇椿姫の「乾杯の歌」など二重唱、三重唱、合唱で美しい歌声を響かせました。「落葉松」では全員で息の合ったハーモニーも披露。聴き入った市民は「涙が止まらなかった。素敵なプレゼントをもらった」と感動した様子。後藤会長は「生の音楽を届けられました」と話していました。

プログラム

歌劇「椿姫」より「乾杯の歌」▽合唱 落葉松▽歌劇「フィガロの結婚」より「手紙の二重唱」▽歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」より二重唱「ねえ ちょっと見てよ」▽喜歌劇「こうもり」より三重唱「一人になって」▽歌劇「カルメン」より「ハバネラ」▽歌劇「魔笛」より「パパの二重唱」▽歌劇「ラ・ボエーム」より「ムゼッタのワルツ」▽合唱いのちの歌▽喜歌劇「こうもり」より「シャンパンの歌」



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、ひむかオペラの会

160 はっぴいドライブインシアター

延岡市

開催日：令和2年11月28日(土)

開催場所：かわまち広場



実施状況

延岡市の秋の風物詩鮎やなで知られる大瀬川河川敷を会場に、申込者の中から抽選で選ばれた105人が40台の自家用車で集合。車内からミュージカル映画「ラ・ラ・ランド」を鑑賞しました。

新型コロナの感染拡大防止に万全を期しての開催。来場者たちは縦8m、横10mのスクリーンに映し出される映画に見入りました。自家用車内で鑑賞し、提供されたアユの塩焼きに舌鼓を打ちながら会話も楽しんでいました。参加者は「映画館とは違う雰囲気、周囲に気を遣わずに楽しめた」と満足そうに話していました。

企画したはっぴいロックフェス実行委員会の瀬川優希さんは「コロナ禍でもゆっくりイベントを楽しんでもらえ、エンターテインメントの力を再認識しました」と話していました。



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、はっぴいロックフェス実行委員会 ▽協賛=カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、延岡シネマ

161 風と土のまつり 2021

延岡市

開催日：令和3年3月13日(土) ■ 開催場所：風土ロッジ(上三輪町)



実施状況

「人がすき、ふるさとがすき～出会い・ふれあい・あふれる笑顔」をテーマに、訪れた子どもたちは人形劇と合唱、和太鼓演奏などの野外ステージを楽しみました。延岡市の母親でつくるグループ「のべおか風と土の学校」が開催するイベント。延岡で生まれ育まれた人々を「土」、芸術文化を「風」と見立て、この出会いから新しい芸術文化を生むことを目的に開催されており、今回で20回目を迎えました。

午前の人形劇では、大阪府を拠点に活動する人形劇団クラルテが「瓜子姫とあまんじゃく」「おおかみと七ひきのこやぎ」を上演。プロの人形劇が披露されました。また、地元のアマチュア人形劇団「風と土の子」は、人形劇団クラルテより半年間に渡り、人形作りから演技指導までを受けての舞台。披露した人形劇「だるまちゃんどてんぐちゃん」のアマチュアとは思えない人形さばきに、会場から大きな拍手が起きました。

野外ステージでは、同グループで活動する子どもたちが元気な歌声を披露し、会場が温かな雰囲気になりました。同グループの江原トネ子代表は「いろいろなものに触れ、子どもがわくわくする瞬間をつくるのが大事」と話していました。

プログラム

- ▽アマチュア人形劇「だるまちゃんどてんぐちゃん」
- ▽人形劇団クラルテ「瓜子姫とあまんじゃく」
- ▽人形劇団クラルテ「おおかみと七ひきのこやぎ」

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、のべおか風と土の学校
▽協賛=日本電気株式会社

162 のべおかパッチワークキルト展

延岡市

開催日：令和3年3月18日(木)～21日(日) ■ 開催場所：延岡総合文化センター 展示室



実施状況

延岡市内外の愛好家60人が制作したパッチワーク、キルト作品450点余りを展示。会場には期間中、親子連れや夫婦、友人同士など800人を超える人が訪れ、作品に見入っていました。

テーマは「世界の花たち」。ヒマワリやユリなどの色鮮やかな花、日本では見ることができない珍しい花、幾何学模様の花々などを見事に表現していました。背景の色合いを考えながら、花の美しさを際立たせる工夫が随所に見られ、城山公園の石垣など延岡らしい風景を取り入れた作品もありました。

サイズは30cm四方の作品から200cm四方もあるベッドカバーサイズの大作までさまざま。新型コロナの感染収束を願い、疫病を払うとされる妖怪「アマビエ」の刺しゅうや、パッチワークのバッグや小物なども展示されました。

来場者は、丁寧に縫い上げられた芸術作品をじっくり鑑賞。バラエティーに富んだ作品に、「素晴らしい作品を見て元気が出ました」「コロナ禍での沈みがちな心に優しさをいただきました」など、たくさんの感想が寄せられました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、のべおか「キルトの世界」展実行委員会

163 延 JOY パラ・さきがけアート展

延岡市

開催日：令和3年3月22日(月)～28日(日) 開催場所：延岡市役所 市民スペース



実施状況

延岡市内の障がいのある人たちが、芸術家と一緒に作り上げた書や絵画などの作品を展示。9月に開催予定の「延JOY パラ・アート展」のプレイベントで、延岡市役所を訪れた市民ら約200人が見入っていました。

6か所の生活介護事業所や企業で、昨年から芸術家を講師に招いて創作教室を開催。そこで制作された絵画5点、書道33点、陶芸30点、写真6点に加え、各施設での創作活動の様態を撮影した写真12点が並びました。いずれの作品もジャンルに縛られない伸び伸びとした表現が印象的でした。

来場者から「作者の工夫やセンスが光っていました」「制作活動の写真から楽しい様子が伝わってきました」など多くの感想が聞かれたほか、出展者が家族と作品について話をしたり、来場者同士が交流を図ったりする光景も見られ、アットホームな雰囲気に包まれていました。

同展に携わった「障がい者にやさしいまちづくり実行委員会」の甲斐けさよ会長は、「教室の生徒は熱心に創作に取り組んでいます。令和3年9月の大会本番までには、さらに素晴らしい作品が生まれそう」と期待を寄せていました。

参加団体

絵画＝はまゆう園生活介護恒富事業所、清松園やわらぎの里 ▽
写真＝旭化成アビリティ延岡営業所▽陶芸＝生活介護事業所ぶらたなす、株式会社 Wa ▽書＝延岡こども発達支援センターさくら園

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、障がい者にやさしいまちづくり実行委員会

164 花宵クラシックコンサート

延岡市

開催日：令和3年3月27日(土) 開催場所：延岡城跡 城山公園 二の丸広場



実施状況

二の丸広場がライトアップされ、満開の夜桜をバックに、クラシックや映画音楽などが披露されました。新型コロナウイルスのため、感染防止の対策を徹底しての開催でしたが、来場者は城山公園では初となるクラシックコンサートに聴き入りました。

出演したのは、市民オーケストラ「延岡フィルハーモニー管弦楽団」と、県北地域でのオペラ振興などを行う「ひむかオペラの会」のソリスト4人。同楽団音楽監督の椋山達己さんが指揮を務めました。

コンサートは、喜歌劇「『こうもり』序曲」で開演。クラシックのほか、アニメ映画「天空の城ラピュタ」より「君をのせて」などよく知られた曲が、同楽団の演奏と美しい歌声とともに届けられ、ディズニーより「ピノキオ」、「アラジン」の劇中歌の演奏で会場が盛り上がりました。

来場者は「知っている曲がほとんどで楽しめました」と満足そうに話していました。

プログラム

喜歌劇「こうもり」序曲▽歌劇「カルメン」より「ハバネラ」「闘牛士の歌」
▽映画「サウンド・オブ・ミュージック」メドレー▽映画「天空の城ラピュタ」
より「君をのせて」▽映画「耳をすませば」より「カントリーロード」▽映画「天空の城ラピュタ」より「いつも何度でも」▽「シンコペティッド・クロック」▽映画「ピノキオ」
より「星に願いを」▽映画「アラジン」より「ホールニューワールド」▽翼をください

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、ひむかオペラの会
▽協賛＝日本電気株式会社

165 「天翔る神々高天原物語」プロローグ

延岡市

開催日：令和3年3月28日(日)

開催場所：カルチャープラザのべおか 多目的ホール



実施状況

国文祭・芸文祭での本公演「日本舞踊で舞う～神話の源流～」のPRを兼ねたさきがけプログラムとして行われました。全国で活躍する延岡出身で日本舞踊家の花柳達真さんをはじめ、花柳さんが所属する東京藝術大学卒業生で作るユニット「藝〇座(げいまるざ)」のメンバー3人が出演。神話をモチーフに花柳さんが書き下ろした新作「天翔る神々高天原物語」の一部を、Mrバニーさんの軽快なトークショーと合わせて披露しました。

この日演じた「笠沙山(愛宕山)嫁取」は、ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメ、イワナガヒメの恋物語。せりふ付きの日本舞踊で演じられ、分かりやすい内容となっていました。三味線を中心に、洋楽やパーカッションなどを折り込んだ楽曲をつけオリジナリティあふれる演出。「芝居の要素を盛り込んだ、日本舞踊の魅力を体験してもらえたのでは」と花柳達真さん。観客からは「歌舞伎を見ているようだった」「日本舞踊は近寄りがたいイメージだったが、かなり楽しめた」などの感想が聞かれました。

プログラム

【天翔る神々高天原物語より「笠沙山(愛宕山)嫁取」】

出演／花柳達真、花柳吉史加、花柳梨道▽ナビゲーター／Mr.バニー

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、延岡日本舞踊協会

166 南郷大島ミュージアム

日南市

開催日：令和2年10月17日(土)～12月6日(日)

開催場所：南郷町大島、目井津港周辺



実施状況

日南市沖に浮かぶ離島、大島を博物館に見立てて、彫刻などの芸術作品を展示するとともに、週末を中心にさまざまな体験型イベントを開催。大島の豊かな自然とアートの融合を表現したミュージアムに、家族連れなど6,000人を超える来場者が訪れ楽しみました。

宮崎市在住で美術家の小松孝英さんが総合プロデューサー。将来も変わらない大島の最大の魅力である「ノスタルジー」をコンセプトに、県内のアーティスト9人が彫刻作品などを展示するアート基地、南郷地区の小学生がアーティストと協力して制作した飴肥石アート約550点(絶景広場)の展示、子どもが楽しむだけでなく、大人の童心をくすぐる秘密基地5か所などが設置されました。

大島へは、市営旅客船「あけぼの3」を利用。船内には地域の子もたちなどが、訪れる方々へ歓迎の言葉をつづった「一言おみくじ」が所狭しと飾られ、待合所には昔の大島の写真も展示されるなど、随所に来場者を飽きさせない工夫もあり、大島の魅力を再認識する機会となりました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日南市、日南市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日南市実行委員会

167 串間市美術展

串間市

開催日：令和2年11月14日(土)～19日(木) ■ 開催場所：串間市文化会館 小ホール



実施状況

市民の創作活動の発表の場として毎年開催。25回の節目となる令和2年は、初めての試みとして串間市内の障がい者支援施設など5事業所も作品を展示し、文化活動を通して相互理解、交流促進を図りました。

絵画、書道、写真の3部門に59点の応募があり、無鑑査、審査員の作品11点も併せて展示されました。期間中の来場者は前回は大きく上回る784人と、関心の高さがうかがえました。来場者は「個性的な作品ばかりで、心が癒やされます」と微笑みながら見入っていました。

応募作品の中から、各部門特選1点、奨励賞3点、努力賞、新人賞を1点ずつが選ばれました。絵画部門で特選に輝いた同市の女性は「6回目の応募で初の特選に驚いています。老後の楽しみとして描き続けたい」と話していました。



入選者

【絵画部門】 特選1点▽奨励賞3点▽努力賞1点▽新人賞1点
 【書道の部】 特選1点▽奨励賞3点▽努力賞1点▽新人賞1点
 【写真の部】 特選1点▽奨励賞3点▽努力賞1点▽新人賞1点

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、串間市、串間市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭串間市実行委員会

168 みまた演劇フェスティバル 2020 秋の「まちドラ!」青春スペシャル

三股町

開催日：令和2年11月21日(土)、22日(日) ■ 開催場所：三股町立文化会館 ほか



実施状況

高校生が輝く「高校演劇のお祭り会場」として、宮崎県内5つの高校演劇部の生徒と三股町民、九州で活躍する演出家と一緒に作品を発表しました。毎年開催している同フェスティバルへの高校演劇部の出演は初めて。2日間にわたり「青春」をテーマにみずみずしい演劇が披露され、「演劇の町三股」を発信しました。

高校生は3会場に分かれ、2日間で3公演をこなしました。宮崎農業高校演劇部の生徒は「回を重ねるうちにどんどん演技が良くなった」と手ごたえを感じた様子でした。同町立文化会館ホールでは高校演劇界の名作「たんぼほとかずのこ」を、九州各地で活躍する高校演劇出身者らが上演し、観客を沸かせました。

プログラム

ヨムドラ！（公募の町民らによる短編朗読劇）「南天の実」「けせらせらせら」「教室でジェットコースター（仮）」▽ガクドラ！（宮崎県内の高校演劇部による短編公演）「ナツメグ」「カラオケ耐久10時間」「さよなら、ヨシハル」▽ミルドラ！「たんぼほとかずのこ」



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、三股町、三股町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭三股町実行委員会、劇団こぶく劇場

169 歌人 小野葉桜を旅する

美郷町

開催日：令和2年11月3日(火)

開催場所：葉桜ふれあい公園、おせりの滝民話伝承館 ほか



実施状況

西郷村(現美郷町西郷)出身の歌人で、若山牧水とも親交のあった小野葉桜(本名・小野岩治、1879～1942年)ゆかりの地を巡るバスツアー。日向市や大阪府からの参加者らは、歌碑や若山牧水の生家などを訪れ、若くして病魔に冒されその才能を十二分に生かすことのなかった薄幸の歌人を偲びました。

葉桜の短歌が刻まれた歌碑に献酒した後、近くの高台にある葉桜ふれあい公園に登り、葉桜が生まれ育った美しい風景に見入りました。また、同町の高さ70mの懸崖から3段に落下するおせりの滝を散策後、おせりの滝民話伝承館や日向市東郷町の若山牧水生家など、葉桜にちなんだ場所も見学し、不遇な人生を真摯に生きぬいた小野葉桜の生涯や短歌にふれる一日となりました。

バスツアー

JR 日向市駅ー美郷町西郷葉桜ふれあい公園等ー西郷ニュー

行程

ホープセンターーおせりの滝民話伝承館ー若山牧水生家・記念館ーJ R 日向市駅

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、美郷町、美郷町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭美郷町実行委員会、葉桜顕彰会

170 森林文化ディスカッション

美郷町

開催日：令和3年3月25日(木)

開催場所：西郷ニューホープセンター



実施状況

美郷町北郷地区に江戸時代から受け継がれる、日向備長炭の製炭技術や現在の取り組みなどを紹介し、美郷町の魅力を再認識しようと開催されました。

パネルディスカッションには、備長炭の生産者や民俗学研究者、行政などから5名のパネリストが登壇。備長炭の特徴や歴史、取り組みなどについて話し合いました。北郷地区の備長炭は「日向備長炭」と呼ばれ、高知県の土佐、和歌山県の紀州と並ぶ三大備長炭の一つに数えられています。材料に最適とされるウバメガシが本県には自生していないため、アラカシを活用してきたこと等が紹介されました。理想の炭を作り上げてきた製炭技術の高さを評価する意見や、炭作りの移住者を受け入れている現状、生活安定のための収入面の課題なども提議。備長炭と地元産のアユやウナギ、シメタケを使った料理の実演もあり、伝統技術の保存と継承を考える良い機会となりました。

また、美郷町備長炭製炭技術保存会の備長炭製炭は県無形民俗文化財指定を令和3年2月25日に受けたことが報告され、同保存会の上杉貴敬会長に指定書が伝達されました。

パネリスト

地村光広(宮崎民俗学会)、安田厚生(県議会議員)、上杉貴敬(美郷町備長炭製炭技術保存会会長)、奥井博貴(同保存会事務局長)、狩峰和彦(同保存会員)、桑津紀大(美郷町農林振興課主幹)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、美郷町、美郷町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭美郷町実行委員会

シンポジウム「2021年。いまこそ『みやざき県ゆかいアート村』」 三県演劇「ゆかいな劇場のつくり方」

シンポジウム ■ 開催日：令和3年4月3日(土) ■ 開催場所：県庁防災拠点庁舎 7階会議室(宮崎市)
三県演劇 ■ 開催日：令和3年4月3日(土)、4日(日) ■ 開催場所：県庁(本館講堂、5号館、防災拠点庁舎7階会議室)(宮崎市)



プログラム 【シンポジウム】ファシリテーター／山森 達也(アーツカウンシルみやざきプログラムディレクター)
出演者 <第1部>パネルディスカッション ▽パネリスト／愛甲貴大(アートステーションどんこや生活支援員)、青井美保(高鍋町美術館学芸員)、大塚千枝(厚生労働省障害者文化芸術計画推進官)、木村郷子(宮崎わたぼうし会副会長)、高峰由美(株式会社ブルーバニーカンパニー代表取締役)
<第2部>対談 ▽パネリスト／吉野さつき(愛知大学教授)、永山智行(劇団こふく劇場代表)
【三県演劇】上演作品／ドキュメンタリー映画「じゆう劇場の瞬き」(2017) じゆう劇場(鳥取県)、演劇「ウタとナンタの人助け 2021」おきらく劇場ピロシマ(広島県)、演劇「素敵な日曜日」みやざき◎まあい劇場(宮崎県)

主催 厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、合同会社こふく劇場(三県演劇)、舞台芸術制作室無色透明(三県演劇)

大人のための短歌超入門

■ 開催日：令和3年5月8日(土) ■ 開催場所：宮崎市民文化ホール(宮崎市)
■ 開催日：令和3年6月5日(土) ■ 開催場所：宮崎県立図書館(宮崎市)
■ 開催日：令和3年6月26日(土) ■ 開催場所：延岡市駅前複合施設エンクロス(延岡市)



実施状況 4名の歌人の皆さんを招き、短歌初心者向けのトークイベントとワークショップを開催しました。

5月8日の講師は穂村弘さん。家族や匂いにまつわる歌を約30首取り上げ、歌から伝わる家族の有り様や五感を連動させる作歌について解説しました。ワークショップでは、参加者が事前に作った「匂い」がテーマの作品について話し合いました。

6月5日の講師は、現役の高校教師でもある「ちばさと」こと千葉聡さん。電子ピアノを演奏しながら、メロディにのせて短歌や古典文法を熱唱。ワークショップでは作品(題「旅」)について、参加者一人ひとりと丁寧な対話を重ねました。

6月26日は、大口玲子さんと高山邦男さん。お互いの作品の解説や、短歌創作のポイントなどを楽しく講話。後半は参加者が「家族」をテーマに即詠した作品を持ち寄り、歌会を行いました。

参加者が作った優秀作品9首は、短歌展「みやざき短歌きらり★」で展示されました。

主催 文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、一般社団法人宮崎県教職員互助会

出張型イベント「“こころ”のふれあうワークショップ」

■ 開催日：令和3年6月11日(金) ■ 開催場所：つよし学園(日南市)
■ 開催日：令和3年6月12日(土) ■ 開催場所：ふれあい食堂(宮崎市)
■ 開催日：令和3年6月20日(日) ■ 開催場所：さくら学園(宮崎市)



実施状況 劇場に来場できない人にも、身近な場所で気軽に芸術文化を楽しんでいただくことを目的に、障がいのある人も含む県内の俳優3人と演出1人で構成する劇団「風のゆかいアート一座」が子ども食堂や障がい福祉施設などに出張し、演劇公演やワークショップを届けるイベントを実施しました。

カーペットを敷き、打楽器を一つ使用するだけといった簡略化した舞台設営で行いましたが、多くの参加者は目の前で繰り広げられる演劇の世界に引き込まれ、見入っていました。

参加者が劇中の効果音の声出しをして演劇に参加したほか、終演後は出演者と参加者の交流も行われ、さまざまな触れ合いが生まれました。

プログラム 上演作品／演劇「おばあさんのこいのぼり」 作／藤井貴里彦、演出／永山智行(劇団こふく劇場代表)
出演者 出演／かみもと千春、新納愛未、和田祥吾

主催 厚生労働省、文化庁、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎県障害者社会参加推進センター

開催地 MAP

